青森タイムトラベル 第16回

拡大する市街地と南部地区

【問合せ】市民図書館歴史資料室（☎017―732―5271）

青森市は昭和の大合併により市域を拡大しましたが、それ以前にも周辺町村との合併により市域を広げていました。今回は青森が市制を施行する前年の明治30年（一八九七）に合併した浦町村と、昭和の大合併以前に小字単位での編入が行われていた大野村を中心に、青森市南部地区の歴史をご紹介します。

浦町村に設置された新駅

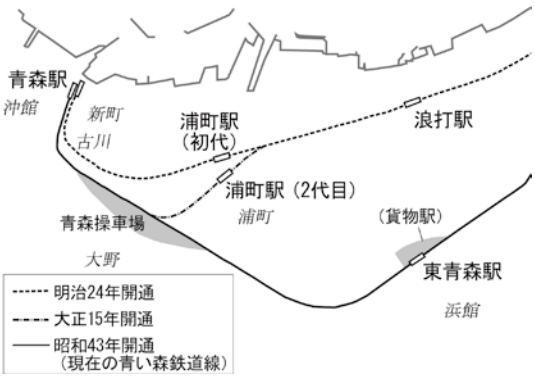
明治24年（一八九一）9月、日本鉄道東京―青森間（のちの東北本線）が全線開通し、安方町に青森駅が開業しました。開業日には式典や催し物が行われ、青森町はお祝いムードに包まれました。

その翌月、日本鉄道では浦町村に新しい駅（浦町駅）を建設することを決めました。この決定を知った青森町の有志は大工町（現本町）から一直線に浦町駅へ通じる道（現平和公園通り）の開削に向けて動き出しています（『新青森市史』資料編6）。

浦町駅は明治26年7月16日に開業し、それから少し遅れて駅へ通じる道（浦町停車場道）が整備されたようです（『東奥日報』明治26年11月14日付）。当初は旅客のみを扱う駅でしたが、のちに貨物も扱うようになりました。

さて、浦町駅というと平和公園付近にあった駅を思い浮かべるかたが多いと思いますが、開業当時はもっと北（旧線路通りと平和公園通りが交わる辺り）にありました。もともと東北本線は旧線路通りを通っていましたが、大正15年（一九二六）に南方（現遊歩道緑地）へ移され、浦町駅も平和公園付近へと移転したのです【地図】。

そして昭和43年（一九六八）、浦町駅は東北本線がさらに南方（現青い森鉄道線）へ移転することに伴って廃止されました。営業最終日には最後の列車を見送ろうと多くの市民が集まりました【写真①】。



【地図】東北本線線路の変遷

大野村にあった市立図書館

今年度、青森市民図書館は開館40周年を迎えましたが、青森市における公立図書館の歴史は明治時代まで遡ることができます。青森市に公立図書館が初めて設置されたのは明治40年（一九〇七）のことでした。それまで有志の手で運営されていた私立青森図書館が市に寄附され、青森市立図書館として開館することになったのです。しかし、図書館は明治43年5月の大火で建物を焼失し、蔵書も失ってしまいました。

この大火では市役所や学校など多くの公共施設が失われたため、すぐに図書館を再建することはできませんでした。図書館再建の動きが見られるようになるのは大正3年（一九一四）のことです。

再建のきっかけは大野村にあった帝室林野管理局（皇室の財産である御料林を管理していた機関）の青森支庁が廃止されたことです。青森市では支庁の建物が図書館に適していると考え、帝室林野管理局などと交渉を行いました。その結果、建物を借用することに

【写真①】営業最終日の浦町駅
（昭和43年7月21日・広報広聴課蔵）

決まり、大正4年、大野村に青森市立図書館が置かれました【写真②】。

さらに、大正14年には図書館を橋本へ移転し、跡地に古川尋常高等小学校（現古川小学校）を建設することが決まりました。当時、青森市では児童数の増加により学校不足が問題となっており、学校の新設が必要な状況だったのです。この学校は大正15年に開校し、青森市の子どもたちが大野村へ通学することになりました。なお、この時建設された校舎は昭和20年（一九四五）7月28日の空襲で罹災しますが、鉄筋部分は残り、平成8年（一九九六）まで使われました【写真③】。

このように、大野村には青森市の公共施設が設置されていたことから、合併を求める声も挙がりましたが、大野村と青森市が合併するのは昭和29年のことでした。

ただし、昭和7年には青森市と接していた字金沢と字片岡の一部を青森市に編入しています。

【写真②】大野村にあった青森市立図書館
（大正時代・『目で見る青森の歴史』より）

行き止まりだった「観光通り」

国道4号から南へ伸びる道の一つに国道103号（通称「観光通り」）があります。青森市と秋田県大館市を結ぶこの道は「八甲田・十和田ゴールドライン」とも呼ばれ、八甲田観光の主要ルートとなっています。

「観光通り」の歴史は、明治35年（一九〇二）に鍛治町（現本町）から浦町へ通じる新道が建設されたことによって始まります。しかし翌年、この新道のつき当たり（現青森商工会議所付近）に青森大林区署（青森営林局の前身）の庁舎が北を向いて建設され【写真④】、新道は南へ伸びることができない状態となりました。

【写真③】古川小学校
（昭和20年代・歴史資料室蔵）

ところが、明治40年に青森大林区署の庁舎が火災で焼失し、沖館（現青森市森林博物館）へと移転することが決まりました。大林区署の跡地は東西二つの区画に分けられ、中央に道路が通されました。さらに、明治43年には東北本線の線路（現旧線路通り）を越えたところに青森高等小学校（現浦町小学校）が建設され、通りは学校付近まで延びました。

その後、学校の南方では大正12年（一九二三）から青森操車場の建設が進められ、大正15年に完成しました。操車場とは貨物列車の貨車を目的地別に仕分け、組み替えるための施設で、青森駅において増加する貨物の取扱いに対応するために建設されました。その跡地が青い森セントラルパークになっていることはご存じのかたも多いでしょう。

この時、操車場の建設予定地内にあった火葬場が操車場南方の筒井村へ移転することとなり、通りは火葬場へ通じる道として、さらに南へと延びていきました。

そして戦後、通りは横内方面へと延びていきました。この道は八甲田観光の新ルートとして期待されるようになりますが、操車場と交差する地点にあった「あかずの踏切」が大きな問題となりました。この問題を解決したのが「八甲田大橋」です。

昭和43年（一九六八）に東北本線は複線電化に伴って南方へ移転することとなり、東北本線と操車場を越える跨線橋が建設されました。昭和44年に完成した跨線橋は、橋の上から八甲田の山々を眺められることから、竹内俊吉県知事によって「八甲田大橋」と命名されました。

今日、南部地区では土地区画整理事業や中央卸売市場の建設、商業施設の進出などにより市街地がさらに拡大しており、「観光通り」が果たす役割は大きなものとなっています。

（市民図書館歴史資料室嘱託員　村上亜弥）

【写真④】浦町にあった青森大林区署
（明治30年代・歴史資料室蔵）